<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1～2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>看護学概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位･30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 看護の歴史、看護の概念及び看護の目的、対象、機能と役割、活動の場の広がりを理解する。
2. 看護の視点から健康の概念、健康の指標について理解する。
3. 看護に関する法律と養成制度を理解し、専門職としての看護のあり方を考える。
4. 看護倫理の基本的考え方を学び尊厳を護る看護のあり方と倫理的課題について考える。
5. 国際看護の概要を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
1. 看護への接近
1）看護を学ぶということ
2）看護の専門性
第2回（講義）
2. 看護の歴史的変遷
第3回（講義）
3. 看護の定義
1）法的定義
2）看護職能団体による定義
3）看護理論家による定義
第4回（講義）
4. 看護の役割と機能
第5回（講義）
5. 看護理論
1）ナイチンゲール
第6～7回（演習）
2）ヘンダーソンの基本的看護の構成要素
第8回（講義）
3）ニード理論、相互作用理論、セルフケア理論、適応理論、ケアリング
第9回（講義）
6. 看護の対象としての人間
1）生物学的基盤からみた人間
2）生活者としての人間
3）成長発達する存在としての人間
第10回（講義）
4）健康障害をもつ対象者の理解
5）家族、集団、地域
第11回
7. 健康の定義
1）社会の変遷と健康観の変化
2）健康に関する指標
3）健康増進に関する関わり
4）健康障害の捉え方
第12回（講義）
8. 看護職の養成制度と継続教育
1）各看護職の養成制度と就業状況
2）看護職者の教育とキャリア開発
3）看護職者の養成制度及び教育体制の課題
第13回（講義 ・ 演習）
9. 看護職者の倫理
1）倫理原則
2）職業倫理としての看護倫理
3）人間の基本的権利と権利擁護
4）倫理的問題への対応
第14回（講義）
10. 広がる看護の活動領域
1）国際看護とは
2）世界の健康問題の現状と国際協力のしくみ
3）災害看護の概念と概要
第15回
科目終了試験 科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（90点） 課題レポート（10点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 （医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 看護覚え書き （日本看護協会出版会）
2. 看護の基本となるもの （日本看護協会出版会）
3. 実践に生かす看護理論 19 （サイオ出版）
4. 国民衛生の動向 （厚生統計協会） 2022/2023</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">看護学概説は基礎看護学の導入となる部分であり、各看護学領域で学習する看護の根底に共通する内容を、学問的基盤に置いて学習していきます。看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割の重要性を認識できるよう、共同学習を通して、知ること、わかることの楽しさを感じながら学んでいってほしいと思います。決して受け身にならず、自分の感性をフルに活用し、常に自分自身の姿勢を確認しながら取り組んで下さい。また、クラス間でもお互いの学習意欲を高め合う努力をして下さい。いろんな本を読み、看護に対する自分の考えが深められるようになることを期待します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>基本技術Ⅰ
（関係構築の技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位･15時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 看護技術とは何かを理解する
2. 対人関係構築のためのコミュニケーションの成立過程と傾聴技術について理解できる</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回 看護技術の概念（講義）
1） 看護技術とは
2） 看護技術の専門性と看護技術
3） 看護技術における倫理

第2回 コミュニケーション技術（講義）
1)コミュニケーションとは
2)対人関係プロセスとしての看護
3)看護とコミュニケーション
4)コミュニケーションのプロセスに影響する要因
5) 関係構築のためのコミュニケーションの基本

第3･4回（実技）
コミュニケーションの実際

第5回 医療における信頼関係とコミュニケーション（講義）

第6回 プロセスレコード（講義）

第7回 看護における報告（講義）

第８回 終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（100点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
3. 看護技術プラクティス 第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業中に紹介。</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">校内実習で看護技術の習得をしてもらいたいと思います。看護技術は手順を覚えるのではなく、年齢や性別、健康レベルの異なる人々に必要な援助を実践するために、技術の原理原則を理解し、援助者と対象者の両者を体験して、技術の根拠や対象者に与える影響を考えながら学習してもらいたいと思います。常に問題意識をもち、そのことを対象者のために探求していく姿勢をもって授業に臨んでください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>基本技術Ⅱ
(安全・安楽の技術)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">看護の基本となる看護活動の基本技術について、その理論と内容を理解し、感染予防技術の意義と重要性を理解し、技術として習得する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回 (講義)
1. 安全を守る技術
1)安全の意義と保証
2. 感染防止の基礎知識
1)感染成立の連鎖
2)標準予防策の基本的な考え方
3)感染予防の具体的方法
4)感染性医療廃棄物の取り扱い
5)感染予防における看護師の責務と役割
第3回 (講義)
1. 標準予防策の具体的方法
1)手指衛生
⑴日常的手洗い
⑵衛生学的手洗い
⑶手術時手洗い
2)個人防護用具の使用目的と着脱方法
3)無菌操作の基礎知識
⑴滅菌物の保管方法と取り扱い
⑵無菌操作の方法

第4・5回 (実技)
1. 衛生学的手洗い
日常的手洗い
擦式消毒用アルコール製剤での手指消毒
2. 個人防護用具の着脱
マスク・プラスチィックエプロン・ガウン・
プラスチィック手袋

第6・7回 (実技)
1. 滅菌物の取り扱い(無菌操作)
1)滅菌包装の開封
2)滅菌パックの開封
⑴鑷子・ガーゼ・綿球の取り扱い
3)消毒綿球の受け渡し
4)滅菌手袋の着脱
2. 包帯法
第8回 (講義)
1. 看護における安楽
1)看護における安楽の意義と目的
2) 安楽を阻害する因子
第9回 (実技)
1. 苦痛の緩和・安楽確保の看護技術
1)罨法
第10回 (講義)
1. 医療安全の取り組みと医療の質の評価
第11回 (講義)
1. 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
第12回 (講義)
1. 主な医療事故の発生要因と防止の技術
1) 報告・連絡・相談に関するもの
2) 転倒・転落に関するもの
第13回 (講義)
1. 医療事故防止対策としてのヒヤリ・ハット報告
第14回 (講義)
1. 看護における医療事故と安全対策
第15回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
3. 看護技術プラクティス 第4版 (Gakken)
4. ナーシンググラフィカ 医療安全 (Gakken)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義と校内実習を交えて学習を進めていき、技術の習得状況を確認していきます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>4科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>基本技術Ⅲ
(ヘルスアセスメント)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. ヘルスアセスメントにおけるバイタルサインの重要性を理解し、バイタルサインを正確に測定し、その値を評価することができる。
2. フィジカルアセスメントの方法を理解し、系統的に観察を実施し、得られたデータからアセスメントできる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回 (講義)
1. 看護におけるヘルスアセスメント
1) ヘルスアセスメントの意義と目的
2) 観察の意義・方法(五感を使った観察)

第2回 (講義)
1. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント
2. ヘルスアセスメントにおけるバイタルサインの位置づけ
1) 体温調整のメカニズム、変動因子、正常と異常、看護、方法
2) 呼吸のメカニズム、変動因子、正常と異常、看護、方法
3) 脈拍のメカニズム、変動因子、正常と異常、看護、方法
4) 血圧のメカニズム、変動因子、正常と異常、看護、方法

第3回 (講義)
1. フィジカルアセスメントにおける基本技術
1)問診 2)視診 3)触診 4)聴診 5)打診
2. 一般状態のアセスメント①:バイタルサイン
1)バイタルサイン測定の目的
2)体温のアセスメントと測定方法

第4回～9回 (実技)
1. バイタルサイン測定
1)血圧測定の実際
2. 呼吸器系のフィジカルアセスメント
1)呼吸音、胸部の問診、視診、打診、聴診
3. 循環器系のフィジカルアセスメント
1)循環器系の問診、視診、聴診
4. 消化器のフィジカルアセスメント
1)腹部の問診、視診、聴診、打診、触診
5. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント
1)関節可動域の測定
6. 神経系・感覚器のフィジカルアセスメント
1)運動機能、感覚機能の評価、反射、目・耳・口のアセスメント
7. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント
1)」視診、触診

第 10 回 (講義)
1. 心理・社会面側面のアセスメント
2. セルフケア能力のアセスメント

第11～12 回 (実技)
1. フィジカルアセスメントの実際

第 13 回
1. 第 11・12 回のまとめ

第14回 技術試験 (実技)
・バイタルサイン測定

第15回 科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(80点) 技術試験(20点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)
2. フィジカルアセスメント完全ガイド (学研)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業で紹介します</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">校内実習を通して、フィジカルイグザミネーションの技術を身に付け、正確な観察を実施し対象者の状態をアセスメントできるようになってもらいたと思っています。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>基本技術Ⅳ
(看護の思考)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 対象に関心を向け、看護者の気づきを基に対象理解することができる。
2. 対象の健康課題に取り組むために、系統的思考プロセスである看護過程の展開ができる。
3. 看護ケアの根拠・エビデンスについての情報を批判的に解釈でき、看護ケアに活用できるかどうかを判断できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1・2回 (講義)
対象者を理解する
コミュニケーション
観察
情報源

第3・4・5回 (講義 ・ 演習)
情報の意味を考える

第6・7回 (講義 ・ 演習)
対象者の全体像を考える
関連図

第８回 講義)
看護上の問題の優先順位

第９・10回 (講義)
看護を考える
看護計画立案
目標(期待される結果)
長期目標と短期目標
計画
観察計画(ObservationalPlan)
ケア計画(Care Plan)
教育計画(Education Plan)

第11・12回(演習)
看護を実践する

第12・13回(演習)
看護を振り返る

第14回(講義)
看護を記録する

第15回(講義)
看護の思考のプロセス</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">課題の内容をルーブリックにて評価する。(90%)
出席状況、受講態度(10%)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">3. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)
4. 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント(学研メディカル)
5. 治療薬マニュアル (医学書院)
6. 検査値早わかりガイド (サイオ出版)
7. 実践に生かす看護理論19 (サイオ出版)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業の中で随時紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">クリティカルシンキングやリフレクションなどの考え方の基本をはじめとし、「実際に起きていることの関連性の見出し方」「情報を解釈する方法」「知識の使い方」などを学べるように演習事例を取り入れて、看護の思考を学んでいきます。思考過程を学んでいくので、自ら疑問を持ちながらしっかり取り組んでください。予習・復習、タイムリーな課題学習が必須です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>生活援助技術Ⅰ
（生活を整える技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・15/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.病床環境を多角的に捉え、安全・安楽を踏まえて、対象に合わせた環境調整技術を習得できる。
2.対象への配慮を考えながら具体的な援助方法を習得できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回
1.環境調整技術（講義）
1)療養生活の環境
2)病室の環境のアセスメントと調整

第 2～3 回（実技）
1.快適な環境をつくる技術
1)環境測定
2)病床環境の調整

第 4 回（実技）
1.ベッド周囲の環境整備
2.病床の作り方と整備の実際①
1)ベッドメーキング

第 5～6 回（実技）
1.病床の作り方と整備の実際②
1)臥床患者のリネン交換

第 7 回
科目終了試験（技術試験）
・ベッドメーキング

第 8 回
科目終了試験（筆記試験）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（80 点）、技術試験（20 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1.系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
2.系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
3.看護技術プラクティス 第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業内で、随時紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">人間の生活における基本的活動のもつ意味を考えながら、対象に合わせた看護援助が行えるよう学習していきましょう。環境調整は看護の基本です。この科目では、ベッドメーキングとリネン交換の看護技術習得を目指していきます。そして、環境調整の必要性を理解した上で、対象に合わせた快適な環境づくりができるよう取り組んでいきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>生活援助技術Ⅰ
（生活を整える技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・15/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.活動・休息が、人間の基本的欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解できる。
2.対象への配慮を考えながら具体的な援助方法を習得できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回（講義）
1. 基本的活動の援助
1）基本的活動の基礎知識
2）体位
3）移動（体位変換・歩行・移乗・移送）

第 2 回（講義）
1.睡眠・休息の援助
1)援助の基礎知識
2)睡眠・休息の援助

第 3 回～4 回（実技）
1.ボディメカニクスを活用した安全・安楽な体位
1）仰臥位から側臥位への体位変換
2）仰臥位から長座位への体位変換
3）ベッドの上方（下方）への移動
2.体位保持（ポジショニング）の援助

第 5～6 回（実技）
1.安全な移乗・移送の実際
1）ベッドから車いす移乗・移送
2）ベッドからストレッチャーの移乗・移送

第 7 回
科目終了試験（技術試験）
・車いす移乗・移送

第 8 回
科目終了試験（筆記試験）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（80点） 技術試験（20 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1.系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
2.系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
3.看護技術プラクティス 第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業内で、随時紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">人間の生活における基本的活動のもつ意味を考えながら、対象に合わせた看護援助が行えるよう学習していきましょう。授業では実際に体位変換や移乗・移送の援助を行うことにより安全で安楽な技術を考えていきます。特に解剖生理学もしっかりと看護実践に繋がるように取り組みましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>生活援助技術Ⅱ
（清潔行動を支える技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 清潔は、人間の基本的欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解できる。
2. 対象への配慮を考えながら、校内実習を通して具体的な援助方法を習得できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回
1. 安全な清潔ケア（講義）
1)清潔ケアを安全に行うための観察視点
2)肺炎で入院後4日目の患者の観察（シミュレーション）
3)清潔のニーズの判断（状況、五感を使った観察、清潔援助の影響）
4)清潔ケアの影響
第2回（実技）
1. 安全な清潔ケア
1)清潔ケアの準備：前回の授業で観察したことから必要な物品を準備
2)物品の用い方（ウオッシュクロス、タオル）
3)セルフケア能力に合った方法の選択
4)思いやりが回復につながるケア
第3回（実技）
1. 安心して受けられる清潔ケア
1)清潔ケアの環境、方法、プライバシー
2)必要最低限の露出
3)身体を冷やさない工夫
4)拭く圧や速さ、時間
第4・5回（実技）
1. 全身を清潔に保つケア
1)回復レベルとセルフケア能力にあった方法の選択
2)全身清拭の実施
第6・7・8回（実技）
1. 頭髪の清潔ケア
1)頭皮・頭髪の清潔ケアのアセスメント
2)さまざまな状況にある患者の頭皮・頭髪の清潔ケアの方法の選択
3)洗髪の実際
第9・10 回（実技）
1. 口腔内のケア
1)呼吸器合併症を防ぐ口腔ケア
2)口腔ケアの実際
第 11・12 回（実技）
1.手浴、足浴
2.指圧、マッサージ
3.爪切り
第 13 回（講義）
1. 清潔ケアの意義
1)学生の気づきの共有
2) 清潔ケアに伴う方法論上の原理・原則
2.技術試験のポイント
第 14 回
科目終了試験（技術試験）
清拭・寝衣交換
第 15 回
科目終了試験（筆記試験）
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（80 点） 技術試験（20 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
3. 看護技術プラクティス 第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">授業は校内実習を中心に進めていきます。実際に看護師役、患者役を体験することで相手の立場に立った看護を考えていきます。洗髪は技術チェックをして技術の習得を確認します。全身清拭・寝衣交換は技術試験を行います。この授業では、原理・原則に基づいて技術を習得していきますが、技術だけでなくコミュニケーションやプライバシーへの配慮など目には見えない、形に残らない技術についても体験を通して一緒に考えていきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2 学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>生活援助技術Ⅲ
（食事・排泄行動を支える技術））</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 健康的な生活における食事・栄養摂取と排泄の意義を学ぶ。
2. 食事・栄養摂取と排泄のアセスメントを行うための基礎的知識を理解し、講義や校内実習を通して援助方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回（講義）
食事・栄養摂取の意義としくみ
食事・栄養摂取のアセスメント

第 2 回（講義）
医療施設で提供される食事の種類と形態

第 3 回 （実技）
経口摂取できる患者の食事介助

第 4 回（講義）
経口摂取できない患者の栄養摂取
1)経腸栄養
2)中心静脈栄養
3)末梢静脈栄養

第 5 回（講義）
排泄の意義としくみ
排泄のアセスメント

第 6 回（講義）
排泄の援助
1)トイレを使用した排泄の援助
2)ポータブルトイレを使用した排泄の援助
3)ベッド上での排泄の援助

第 7～8 回 （実技）
排泄援助の実際
1)ベッド上での排便の援助
2)ベッド上での排尿の援助
3)おむつ交換
4)陰部洗浄

第 9 回（講義）
排便障害のある患者の援助
1)便秘 2)下痢 3)便失禁
排便に関する処置
1)浣腸 2)摘便

第10 回（実技）
排便に関する援助の実際:浣腸

第11 回（講義）
排尿障害のある患者の援助
1)頻尿と尿失禁 2)排尿困難と尿閉

第12～13 回 （実技）
排尿に関する援助の実際:一時的導尿

第14 回
科目終了試験(技術試験)
一時的導尿

第 15 回
科目終了試験(筆記試験)
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(80 点） 技術試験(20 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
2. 看護技術プラクティス 第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業内で、随時紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">食事・排泄は人間の生活において重要な意味を持っています。その意義を理解したうえで、食事・栄養摂取のおよび排泄のアセスメントの視点を学習し、援助を受ける対象の思いや環境調整を思考しながら援助を実施できるように努めていきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>基礎看護援助論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 患者の状況から逸脱や正常に気づくことができる
2. 得られた情報から、患者の状態の解釈ができる
3. 患者の反応を見ながら、安楽・安全に看護援助を行うことができる
4. 対象の反応を正確に捉えて、看護行為を評価できる
5. 臨床判断プロセスについて理解できる</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
臨床判断
1）臨床判断とは
2）臨床判断の構成概念
3）臨床判断のプロセス
4）看護過程と臨床判断の関連

第2回（演習）
臨床判断の実際①
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第3・4回（演習）
臨床判断の実際②
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第5・6回（演習）
臨床判断の実際③
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第7・8回（演習）
臨床判断の実際④
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第9・10回（演習）
気づきの強化①排泄援助の場面
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第11・12回（演習）
気づきの強化②清潔援助の場面
目の前の患者の状況に気づく
気づきを行動にうつす
患者の反応や変化を捉え、振り返る

第13・14回
実技テスト(OSCE)
場面を見て臨床判断を行う
判断の振り返りを行う
看護師の役割・対象の理解
看護師の臨床判断プロセス

第15回
終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記テスト:50点
ルーブリック評価:50点</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論(医学書院)
系統看護学講座 専門分野 呼吸器・循環器・消化器(医学書院)
系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学(医学書院)
看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 (学研)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">看護師のように行動できる思考を作るための大切な授業です。今まで学んだ知識や技術を活用しながら正確な観察、判断、看護の実践を考えていきます。事前学習をして、授業に臨んでください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>龍馬のつくった高知学</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 高知の自然、歴史、文化、社会、人々の暮らしと健康などについて基本的な理解ができる
2. 地域で暮らす人々の健康、生活について自らの考えをまとめ、説明することができる
3. 授業から得た興味関心のあるテーマについてさらに調べ、レポートし課題についてまとめることができる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈事前学習〉
高知にちなんだ書物などを調べ、自らも地域での生活者として興味をもって授業に参加 できるようにする。・事前に自分の住んでいる市町村の人口や特色などの基本データや情報を調べておくこと
第1回(講義)
1. 私たちの暮らしとはどのようなものか。
1)人々の暮らしの理解
2)自分の暮らしと他者(友人)の暮らしの違い
3)暮らしと地域
4)暮らしと地域を理解するための考え方
5)地域包括ケアシステムと地域共生社会
第2回(演習)
1. 自分たちの暮らす地域とはどのような場所か？
1)地域の人口構成の多様性
(1)各世代の人数構成
(2)健康を守る医療職者(看護師)数
2)地域の産業構造の多様性
(1)第一次産業、第二次産業、第三次産業
3)地域の住民・文化の多様性
(1)地域特有の衣食住に関する文化
4)地域の人口密度の多様性
(1)地域のつながり
第3回(演習)
1. 自分たちの暮らす地域のデータから特徴を読み解こう！
1)第2回で調べたデータをもとに担当地域の人口、世帯数、死亡率、産業、健診受診率等を整理。不足部分をフィールドワークで調べるための準備。
第4回(演習)
1. フィールドワークをするためには、どのような準備が必要なのか？
1)担当地域のデータをまとめ、分析
2)分析した内容を基にどのように地域調査をするか検討
3)担当する地域の地域的特徴や社会資源の状況等を調べ、地域調査の計画立案(共有化)
第5回・6回(演習 フィールドワーク)
1. 実際に自分の目で見て耳で聴いて地域の特性をつかもう！
第7回・8回(演習 学びの発表)
1. 自分たちの調べたことを他者に伝えよう。
(ゲスト)高知県健康政策部医療政策課
第9回(講義・演習)
1. 地域で暮らす人々が健康に暮らすために必要な資源とは？
1)担当地域の健康維持・増進、介護予防を目的とした多様な活動
2)自助、互助、共助
第10回・11回(演習 フィールドワーク)
1. 地域で健康に暮らすための資源を見つけよう！
第12回・13回(演習)
1. 自分たちの調べたことを効果的に他者に伝えるためには、どのような準備が必要か？
1)フィールドワークのまとめ
第14回・15回(演習 学びの発表)
1. 健康に暮らすための資源の活用について地域の方々にプレゼンテーションしよう。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">レポート評価 50%、プレゼンテーション・ディスカッション 30%、ピアj評価 20%</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">本授業では、龍馬の創った高知県の歴史や風土を紐解き、その奥深さや人々の営みの尊さを理解し、その延長上にある現在の高知県の文化・社会と人々の生活を知る。また、私達と、看護の対象が暮らす場としての高知県の人々の健康や生活の特徴について、明らかにする。高知県の自然、歴史、文化、社会、人々の暮らしと健康の関連を調べ、ゲストの方にプレゼンテーションを行い、興味関心のあるテーマについてさらに探求していくために、能動的に参加して欲しい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護学概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位･30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.ライフサイクルからみた成人の身体的･心理的･社会的な特徴及び発達課題からみた成人期の特徴について理解する。
2.多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活環境や生活習慣と関連づけて理解する。
3.成人期の対象の健康レベルに応じた看護と成人看護に必要な理論を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回：成人期にある対象の特性（講義）
1. 成人看護学とは
2. 成人の定義
3. 成人期にある対象の成長発達の特徴
1) 身体的・精神的・社会的特徴
2) 発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）
4. 成人期にある人の学習支援
1) アンドラゴジー

第2回：保健統計からみた成人の保健動向
1. 成人保健の動向（講義）
1) 成人人口の動向
2) 平均寿命と健康寿命
3) 疾病の概況

第3～4回：成人期にある人の生活と健康障害
1. 成人期にある人の生活（講義）
1) ライフスタイルの変化　2) 家族機能の変化
2. 生活習慣に関連する健康問題とその予防
1) 生活習慣病の発生因子と現状
2) 生活習慣病の予防
3. 生活ストレスに関連する健康問題
1) ストレス関連疾患の発生状況と対処法

第5～6回：成人期のヘルスプロモーション
1. ヘルスプロモーションの推進（講義）
1) ヘルスプロモーションの定義
2) 健康の社会的決定要因
3) ヘルスプロモーション活動の原則
2. わが国のヘルスプロモーションの変遷
1) 健康日本21、健康増進法
3. ヘルスプロモーションにおける看護の役割

第7回:成人期にある人の職業に関する健康障害
1.職業と疾病（講義 ・ 演習）
1)成人期にある人にとっての仕事
2)社会状況と労働の実態
3)職業性疾患の発生状況
2.職場の健康管理
1)労働安全衛生法
2)作業環境･作業環境管理
3)ワーク･ライフ･バランス
4)トータル･ヘルスプロモーション

第8～11回:成人期の健康レベルの特徴と看護
1.健康レベルの特徴（講義）
2.経過別の看護援助
1)健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護
2)生活機能障害を有する人への看護
3)慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護
4)人生の最期の時を迎える人への看護

第12～14回:成人期の看護に必要な理論
1.健康モデル（講義 ・ 演習）
1)M･ニューマン:人間と環境の相互作用パターン
2.危機理論
1)フィンクの危機モデル
2)アギュララとメズイックの問題解決型危機モデル
3.ストレスコーピング理論
4.自己効力理論

第15回:科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1.系統別看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学[1]　医学書院
2.実践に生かす看護理論19（サイオ出版）
3.国民衛生の動向（厚生統計協会）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業の中で、随時紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">成人である自己をまず理解しましょう。そして、成人各期の特徴を理解し、健康保持･増進、疾病予防、健康回復過程に看護者としてどのように関わっていくかを考えながら学習してほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>老年看護学概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
2. 老化と疾病や障害の程度に応じた看護に関する知識、高齢者の健康を守るための保健・医療・福祉システムを理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 未知なる老いとは
1)老いのイメージ
2. 加齢と老化
1)加齢と老化の関係
2)加齢を説明する諸説
3)新しい老化モデルへの転換
3. 老年期とは
1)ライフステージとしての老年期
2)老年期の発達段階
エリクソン、ペック、ハヴィガースト

第2～3回
1. 老化に伴う身体的・精神的・社会的特徴
1)身体的側面の変化
2)心理的側面の変化
3)社会的側面の変化

第4回
1. 老年保健・医療・福祉の動向①
1)人口高齢化の特徴とその影響

第5回
1. 老年保健・医療・福祉の動向②
1)保健医療福祉システムの構築
2)高齢者を支える職種と活動の多様化
3)高齢者とソーシャルサポート

第6回
1. 高齢社会における権利擁護
1)高齢者におけるスティグマと差別
エイジズム
2)高齢者の虐待
高齢者虐待防止法
3)身体への拘束
4)権利擁護のための制度
成年後見制度、
日常生活自立支援事業

第7回
1. 老年看護の基盤
1)老年看護の定義
2)注目すべき4つの側面
3)老年看護の特徴
4)理論・概念の活用
エンパワメント、ストレングスモデル、
サクセスフルエイジング
アドボカシー、ライフレビュー
5)老年看護に携わる者の責務

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)
2. 国民衛生の動向 2023/2024 (厚生統計協会)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">授業で紹介</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">老年看護の対象を理解するために、この講義を履修する前に、自分の「高齢者に対するイメージ」について考えてみてください。また、高齢者を取り巻く社会の変化や取り組みについても学び、理解を深めていきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">1学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護学概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">母性看護の対象及びその特徴を学び、母性看護の基盤となる概念や母子行政を理解する。
母性各期における発達段階の課題、健康の保持・増進、疾病の予防、障害に対する看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回
母性看護の基盤となる概念
1）母性とは
2）母子関係と家族発達
ボウルビーの愛着理論
クラウス・ケネルの母子相互作用
3）セクシュアリティ
4）リプロダクティブヘルス／ライツ
5）ヘルスプロモーション
6）女性のライフサイクルと家族
7）母性の発達・成熟・継承
8）母性看護のあり方
9）母性看護における倫理

第3～4回
母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状
1）母性看護の歴史的変遷と現状
(1)母子保健統計の動向
(2) 母性看護に関する組織と法律
(3)母子保健に関する施策
(4)母子看護の場と職種
2）母性看護の対象を取り巻く環境
(1）家族
(2）地域社会
(3）生物学的環境
(4）社会文化的環境

第5～6回
女性のライフステージ各期の看護
1）思春期の特徴と看護
2）成熟期の特徴と看護
3）更年期の特徴と看護
4）老年期の特徴と看護

第７回
リプロダクティブヘルスケア
1）家族計画
2）人工妊娠中絶
3）喫煙
4）性暴力
5）児童虐待

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（100 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1.　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①　母性看護学概論　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 国民衛生の動向　（厚生統計協会）　2023/2024</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">女性は妊娠・出産・母乳保育という女性独自の生物学的役割があり、男性とは異なる特徴があることを理解し、学習を進めてほしい。また、自分自身の生命も含め、生命について考える機会としたい。</td></tr>
</table>